

専任教員の研究概要

教員紹介

専門職学位課程は、研究者教員と実務家教員から構成されています。研究者教員は、教育経営学・教育社会学・教育方法学・発達心理学・学習心理学・教育心理学など、教育学や心理学のバックグラウンドを持っています。実務家教員は、校長として活躍したり、教育委員会で教育行政に携わってきた、豊かな経験を有しています。また一部の授業は、教育学部等の教員が「協力教員」として担当しています。

○ 研究者教員

研究の概要

高橋 望

【教育行政学・教育経営学】

自律的な学校経営、それに基づく学校ガバナンスの在り方について研究を進めている。また、諸外国における教育実践について関心を持ち、日本との比較検討を行っている。

山崎 雄介

【教育内容・方法学】

教育内容編成、授業づくりについての研究を活かし、校内研修の改善や教科横断的領域（キャリア教育等）のカリキュラム開発をテーマとする院生諸氏と共に課題研究にとりくんでいる。また近年は、「教育改革」のなかでの学校像やそこでの教育課程のあり方、学校・教員の評価などにも関心を持っている。

新藤 慶

【教育社会学】

地域社会と教育の双方向の規定関係について研究している。特に、在日ブラジル人の教育・保育を対象に、地域社会の国際化が学校に与える影響や、子ども同士の交流が地域社会にもたらす意味の解明に取り組んでいる。

三澤紘一郎

【教育哲学】

動物性と規範性が同居する人間存在を、近年の分析哲学の展開を手掛かりとしながら攻究している。特に、知識、理性、自然をめぐる議論から、人間の生における「教育」概念をとらえなおす試みに関心をもっている。

大島みずき

【発達心理学】

幼児期から児童期の子どもの社会性の特徴と、その発達について研究を行っている。また、園のシステムの中における幼児の仲間関係の発達についても検討している。

音山 若穂

【発達社会心理学】

児童期から青年期にかけての対人関係や、情動を中心とする心理的ストレス理論に基づく対人ストレスとその対応、ソーシャルサポートとの関連について対人社会心理学を基盤として検討している。

佐藤 浩一

【学習・認知心理学】

日常生活の中での認知機能について検討している。教授学習を促進する要因、集団での問題解決、エピソード記憶（自伝的記憶）などを主に検討している。





山口 陽弘

【人格・認知心理学】

幅広く教育全般に関する評価活動をより効率よく、正確に行うための研究を、教育心理学、認知心理学、心理統計学などの理論的知識を背景として行っている。小中学校における各種実践的研究にも、研究領域を広げて活動している。

○ 実務家教員

研究の概要

矢島 正

【学校運営】

教育課程管理をはじめとして、児童生徒指導、家庭・地域社会との連携、進路指導、特色ある学校づくり、施設・設備の充実など総合的な学校運営の在り方について、具体的な事例を基に実践的な考察を深めている。

懸川 武史

【学校教育相談】

学校教育相談における問題を、教師が自己課題としてとらえて解決することを、ケース研究、ワークショップにより支援していく。また、予防・開発的な観点からは、ピア・サポートモデルの循環的仮説生成－検証過程を、学校教育相談上の課題解決事例によりモデルを検証し研究を進める。

田村 充

【学習指導】

児童生徒が学ぶとはどういうことなのか、教師が教えるとはどういうことなのかを具体的な実践を通して検討している。特に、どうすれば、学校での学びが児童生徒のその後の生活の中で生きて働く力となるかについて、認知心理学の研究成果をもとに検討していく。

平林 茂

【学習指導】

さまざまな授業場面において、特に知識・理解や認知・思考、学びのつながりに焦点をあて、学習の質を高めるための内容や指導方法、カリキュラム・マネジメントについて実践的に研究している。

木村 淳一

【学校運営】

カリキュラムの改善・充実、地域・家庭や外部機関との連携、生徒指導・キャリア教育の推進など、特色ある学校の体制づくりに向け、今、求められる学校運営のあり方について研究を進めている。

立見 康彦

【生涯学習・授業設計】

社会教育施設や学校における生涯学習の在り方について実践的に研究している。また、生涯学習や視聴覚教育・評価などの観点を中心とした授業設計について取り組んでいる。

